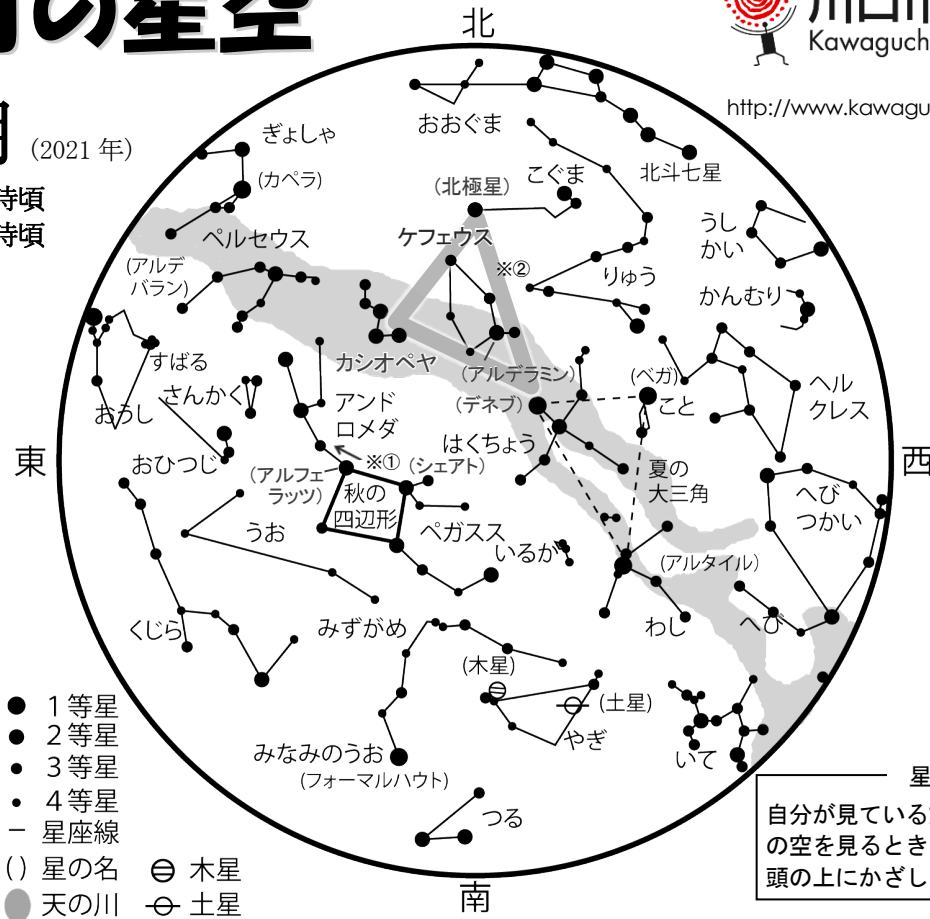


# 今月の星空



10月 (2021年)

上旬 21 時頃  
下旬 20 時頃



- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- 星座線
- ( ) 星の名
- 天の川
- ♃ 木星
- ♄ 土星

星図の見方  
自分が見ている方向を下にして、(西の空を見るときは西を下にして持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 新月 6日、◐ 上弦 13日、○ 満月 20日、◑ 下弦 29日 ※十三夜 18日

## 惑星情報

水星 明け方 東(おとめ座 0→-1等) ※下旬 金星 夕方 南西(てんびん→さそり→へびつかい座 -4等)  
木星 夜のはじめ頃 南(やぎ座 -3等) 土星 夜のはじめ頃 南(やぎ座 1等)

## ★秋の四辺形からたどる古代エチオピア王家の星座たち

空高くに秋の四辺形が昇ってきました。四角を作る4つの星のうち、「アルフェラッツ」はアンドロメダ座の星です。アンドロメダとは、ギリシャ神話における古代エチオピア王家の王女のこと。この星座は、星図のとおり、「シェアト」から「アルフェラッツ」へつないだ線<sup>※①</sup>の方向に星が並びます。その隣にはアンドロメダの母、カシオペヤ王妃の姿(カシオペヤ座)。“W”の形が目印の星座です。さらにその隣にはアンドロメダの父、ケフェウス王の姿(ケフェウス座)もあります。星図のとおり、ロケットのような形が特徴で、デネブーカシオペヤ座ー北極星で作る三角の範囲<sup>※②</sup>を目安に見つけましょう。

「秋晴れ」の言葉があるように、この時期は空気が澄んで夜空もきれいに見える季節です。18日は、「十三夜」と呼ばれる2度目のお月見の日。のんびりと秋空に映える月や星座を眺めてみましょう。

## ★水星・金星は「最大離角」頃が見ごろ

水星と金星は、地球より内側の軌道を回り、太陽から大きく離れることがないため、観測できるタイミングは日没後や日の出前に限られます。特に水星はその期間や時間帯が短く、観測のねらい目は「最大離角」頃です。最大離角とは、太陽ー地球ー惑星のつくる角度が最大になる時(右図参照)で、惑星が太陽から最も離れて見えるため、観測しやすくなります。地上から見て太陽の西側にあるか東側にあるかで、「西方」「東方」と区別されます。

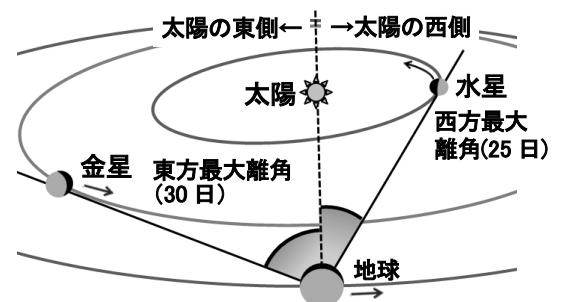


図 10/25 の水星・金星と太陽、地球の位置 (StellaNavigator/AstroArts を基に作成)

水星は25日に西方最大離角となります。前後の21日~31日頃が見ごろで、日の出前の東の低空に見られます\*。また、金星は30日に東方最大離角となります。金星の見ごろは長く、12月頃までは日没後から2時間程度、西の低空で見られるでしょう。

※観察方法など詳しくは、国立天文台のWEBサイト(<https://www.nao.ac.jp/astro/sky/>)等をご覧ください。